

第8回日本言語聴覚士協会 九州地区学術集会 佐賀大会開催報告

大会長 緒方 和則
実行委員長 峰松 麻美

九州地区学術集会は九州地区の8県持ち回りで開催されている大会で、佐賀県士会では2017年より実行委員会を立ち上げ、2年の歳月をかけて準備した大きなイベントでした。最初の仕事は2018年1月27日～28日に開催された沖縄大会での次回開催地紹介で、いよいよだという実感とご活躍の沖縄県士会の皆様を目に、不安と期待が一気に上がった瞬間は昨日のこのように思い出されます。

本大会のテーマは「輪～つながり～」。地域共生社会に向けて、世代を超えて顔の見える関係づくりが、専門という垣根を越えて地域でつながっていかねばいけない時代に、私たち言語聴覚士もその一役を担えるようにとの願いを込めて、迷うことなく決まったテーマでした。実行委員一同、このテーマのもと、「ドキドキをワクワクにかえて、精いっぱい楽しもう」そんな合言葉を胸に、2019年1月19日～20日に佐賀大会を開催することができました。

プログラムには、特別講演として「聴覚障害は言語聴覚士の幅広い支援を必要としている！」国際医療福祉大学大学院医療福祉学専攻科教授 深浦順一先生（日本言語聴覚士協会会長）をはじめ、基調講演には、「地域共生社会を目指



大会長の挨拶

して～言語聴覚士に求められること～」介護老人保健施設マロニエ苑 黒羽真美先生（日本言語聴覚士協会常任理事）や、教育講演「お食い締め」愛知学院大学 牧野日和先生をはじめとする3講演に加え、ランチョンセミナー2講演、シンポジウム「地域におけるSTの役割」も黒羽先生の司会のもと、九州地区各県士会より発表していただきました。また、演題数は45題（口述、ポスター）、2日間で264名の参加をいただきました。

「頑張って」「応援してるよ」前回開催地であった沖縄県士会の先生方をはじめ、たくさんの先生方からの応援を背に、まさに「輪～つながり～」を感じることができた夢のような私たちの舞台、そして2日間でした。

なにより、この大会で一番につながれたのは言うまでもなく佐賀県士会員でした。

貴重な経験をさせていただけたことに心より感謝申し上げます。



基調講演



懇親会参加者集合写真